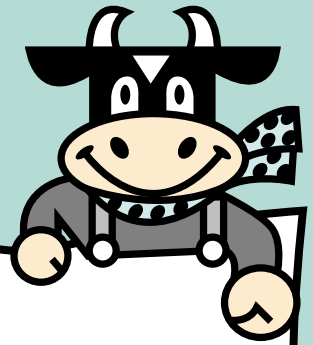




ワンポイント・アドバイス



黄体の役割って？

「卵胞」と「黄体」は繁殖で頻りに耳にする単語だと思います。繁殖は卵胞から健康な卵子を排卵させ、受精・受胎させるためにやっているものですから、人工授精師さんに『イイ卵胞があるよ』なんて言われたら心躍るなんて方も少なくないのではないでしょうか？

一方、卵胞が排卵した後にできる黄体に対しては、PGを使うための指標ぐらいいにしか思っていない方も同様に少なくないと思います（まあ、まるっきり間違いではないのですが…）。

黄体ホルモンの最も有名な役割は、妊娠の開始や維持です。では、妊娠しなかった場合の黄体の役割って何なのでしょう？黄体ホルモンの働きの一つに

『体が卵胞ホルモンに反応するための準備』があると言われるようになってきています。体が卵胞ホルモンに反応するってどういう事かというところ、つまり

『はつきりした発情徴候を示し、ちゃんと排卵する』
ということです。普通に発情周期を送っている牛ならば、黄体は必ず出来る為、

『体が卵胞ホルモンに反応するための準備』が行われないうちで稀で、ほとんど問題にはなりません。しかし、長期間黄体が作られない状態（卵胞嚢腫や卵巣静止）ではこのことは問題になります。

近年、卵胞嚢腫や卵巣静止の治療に黄体ホルモン製剤（CORS・シダー）を用いた方法が報告されています。CORSと言うよりイージーブリードと言ったほうがピンとくる方もいるのではないのでしょうか。従来は発情同期化で用いられていたホルモン剤です。卵胞嚢腫や卵巣静止の治療に黄体ホルモン製剤であるCORSを使う目的は、黄体ホルモンを投与することにより

『体に卵胞ホルモンに反応するための準備』をさせ、卵胞ホルモンへの反応性を高めることにあります。CORS単独の方法もあれば、他のホルモン剤を併用する場合もあり、どれも成果（発情発現率の向上、受胎率の向上、空胎期間の短縮など）が得られているようです。

残念ながらCORSは給付薬ではありませんが、頑固な卵胞嚢腫・卵巣静止で困っていて興味のある方は獣医師にご相談下さい。

